

N E C

Express5800シリーズ

ESMPRO[®]/AC Advance

Ver4.0

UL1046-206

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは ESMPRO/AC Advance Ver4.0をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
す。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項
を中心に構成されています。 ESMPRO/AC Advance Ver4.0をお使いになる前に、必ずお
読みください。

Windows Server[®] 2008、Windows Vista[®]、Windows Server[®] 2003、Windows[®] XP、Windows[®] 2000、
Microsoft[®] は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
ESMPRO[®]は日本電気株式会社の登録商標です。

目次

第1章 製品内容.....	4
第2章 セットアップの準備.....	5
2.1 ESMPRO/AC Advanceのセットアップ環境.....	5
2.2 ESMPRO/AC Advanceの構成例.....	7
第3章 セットアップの方法.....	8
3.1 ESMPRO/AC Advanceのインストール.....	8
3.2 ESMPRO/AC Advanceのアンインストール.....	13
第4章 AMC機能.....	18
4.1 AMC機能を使用するためのセットアップ.....	18
4.2 マルチサーバ構成の運用例.....	23
第5章 障害発生時は.....	26
5.1 マルチサーバ構成でのログ採取方法.....	27
第6章 注意事項.....	31
6.1 セットアップ関連.....	31
6.2 運用時における注意.....	31

第1章 製品内容

ESMPRO/AC Advance Ver4.0のパッケージの内容は、次の通りです。
まず、添付品が全部そろっているかどうか、確認してください。

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ・ ソフトウェアライセンスキー | 1 部 |
| ・ ソフトウェアのご使用条件 | 1 部 |
| ・ ESMPRO/AC Advance Ver4.0 について | 1 部 |

第2章 セットアップの準備

ESMPRO/AC Advance は ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品です。ESMPRO/AC Advance をご使用になるためには、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver4.0 も併せてセットアップが必要です。

2.1 ESMPRO/AC Advance のセットアップ環境

ESMPRO/AC Advanceをセットアップするためには、次の環境が必要です。

① ハードウェア

＜サーバ＞

- ・対象機種 : Express5800シリーズ
- ・メモリ : 2.5 MB 以上
ESMPRO/AutomaticRunningController
と合計すると 5.0 MB 以上
- ・固定ディスクの空き容量 : 4.0 MB 以上
ESMPRO/AutomaticRunningController
と合計すると 10.0 MB 以上
- ・HW/BIOS機能（＊） : 制御端末のリモート起動、リモートシャットダウンを利用する場合は、WOL(WakeOnLAN)機能を実装しているサーバOSのシャットダウンで、電源OFFが可能なサーバ

（＊）サーバ本体HWが提供する機能を利用するため、機種によっては機能が提供されていない場合があります。

例えば、BIOS設定項目で WakeOnLAN機能を有効にしたサーバであっても、Windows2000等ACPIサポートOSでのシャットダウン状態からの「WakeOnLANによるサーバ起動機能」は「HW的に無効な仕様」の機種があります。

Express5800/110Ef、120Ee、120Rd-2等がこれに該当します。

これらの環境は、リモート起動を含め、自動運転の起動機能は実現できません。

また、スタートメニューなどからのシャットダウンの起動にてサーバの電源がOFFされないサーバでは、自動運転の停止機能の場合にも同様に電源がOFFできません。

この場合には、その後の自動起動も出来ません。

これらの機能制限は、サーバ本体のHW仕様等に依存する為、導入の際には、予め使用するサーバ本体HWおよびOSを確認してください。

（同一装置であってもBIOSのバージョンに依存する場合があります。）

＜クライアント＞

- ・対象機種 : PC98-Nシリーズ、PC-AT互換機、Express5800シリーズ
- ・メモリ : 2.5 MB 以上
- ・固定ディスクの空き容量 : 6.5 MB 以上

② ソフトウェア

<サーバ>

Windows 2000 Advanced Server/Server/Professional

Windows XP Professional

Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition/Datacenter Edition/Small Business Server

Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server

Windows Vista Business

Windows Server 2008 Standard Edition/Enterprise Edition

<クライアント>

Windows 2000 Advanced Server/Server/Professional

Windows XP Professional/Home Edition

Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition/Datacenter Edition/Small Business Server

Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server

Windows Vista Business

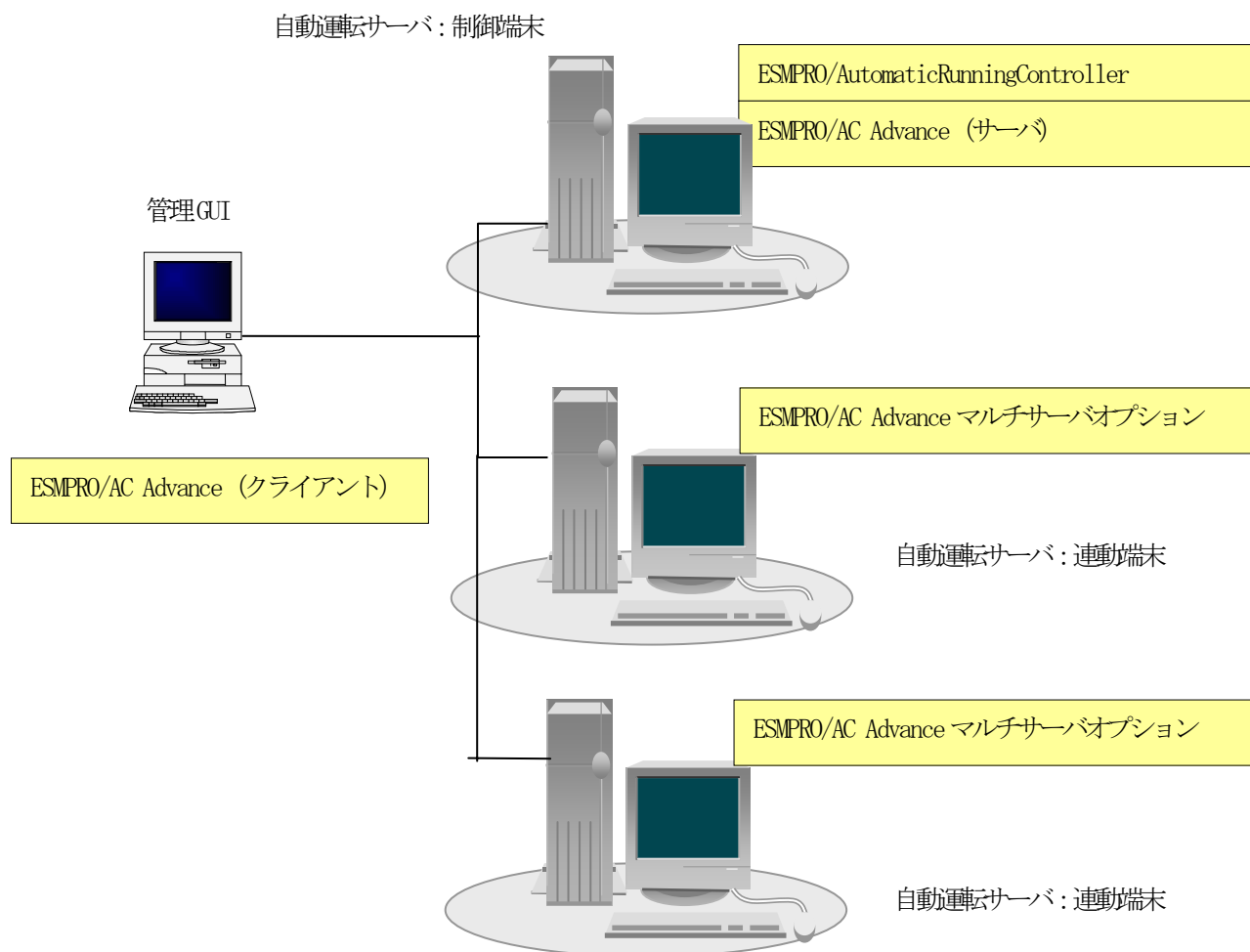
Windows Server 2008 Standard Edition/Enterprise Edition

*AMC(AC Management Console)機能によりマルチサーバ構成で制御される連動
端末（非制御端末）には、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがセッ
トアップされている必要があります。

最新の動作環境については、下記サイトでご確認ください。

ESMPRO/AutomaticRunningController (http://www.nec.co.jp/esmpro_ac/)

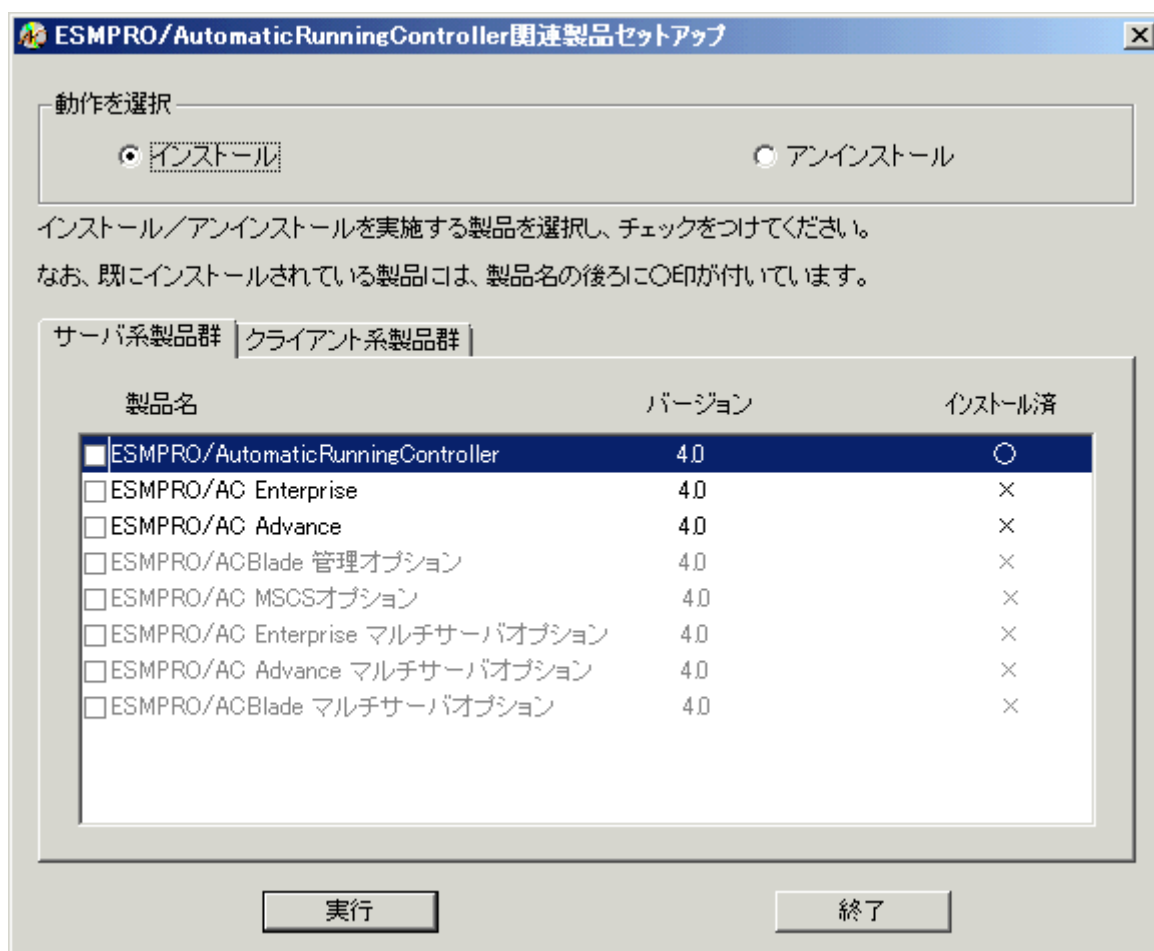
2.2 ESMPRO/AC Advance の構成例



第3章 セットアップの方法

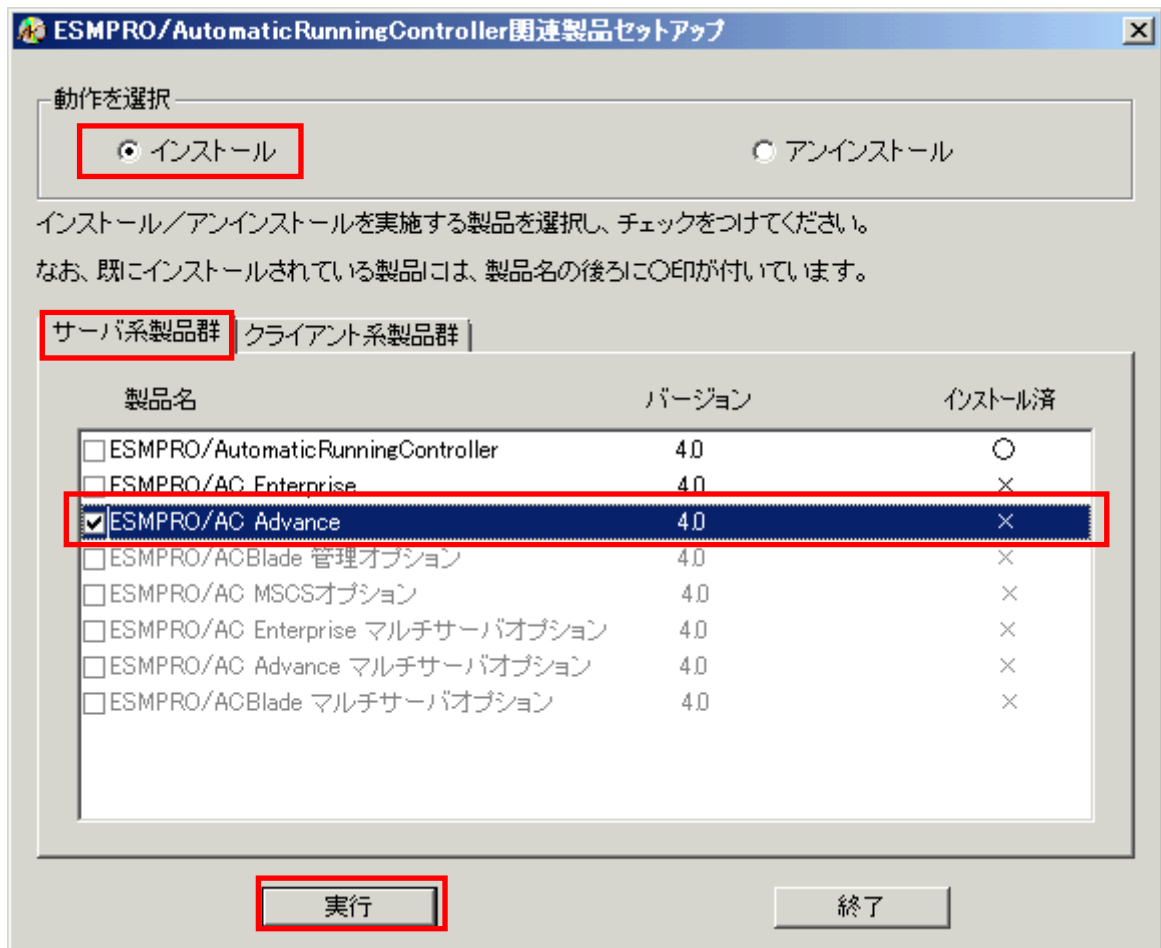
3.1 ESMPRO/AC Advance のインストール

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 1.0』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- (2) CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。

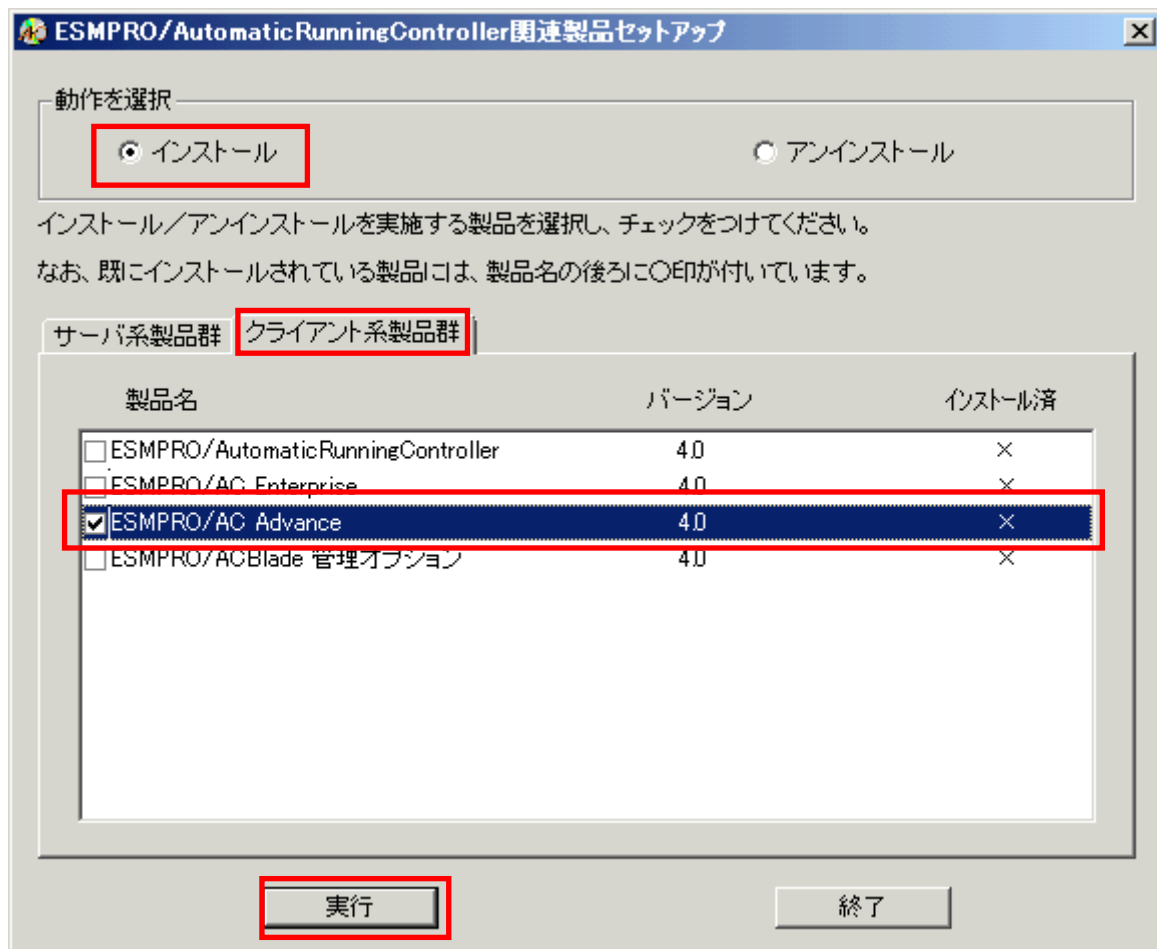


(3) 「ESMPRO/AC Advance」のセットアップには「サーバ系製品」と「クライアント系製品」があります。

- ◆ ESMPRO/AC Advanceのサーバ系製品をインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。

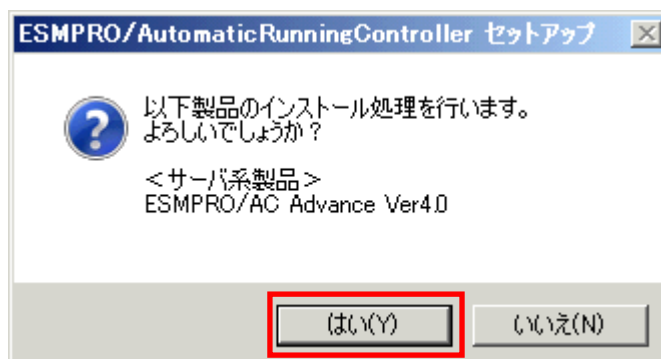


- ◆ ESMPRO/AC Advanceのクライアント系製品をインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、クライアント系製品群タブの中からESMPRO/AC Advance を選択し、チェックを有効にします。

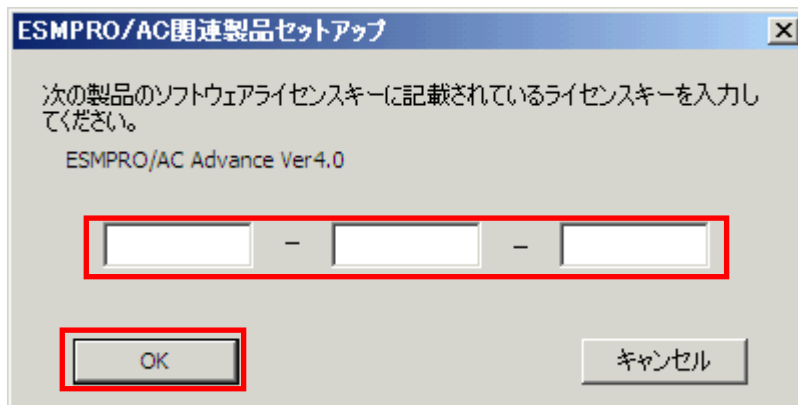


(4) 「実行」ボタンを選択します。

(5) 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

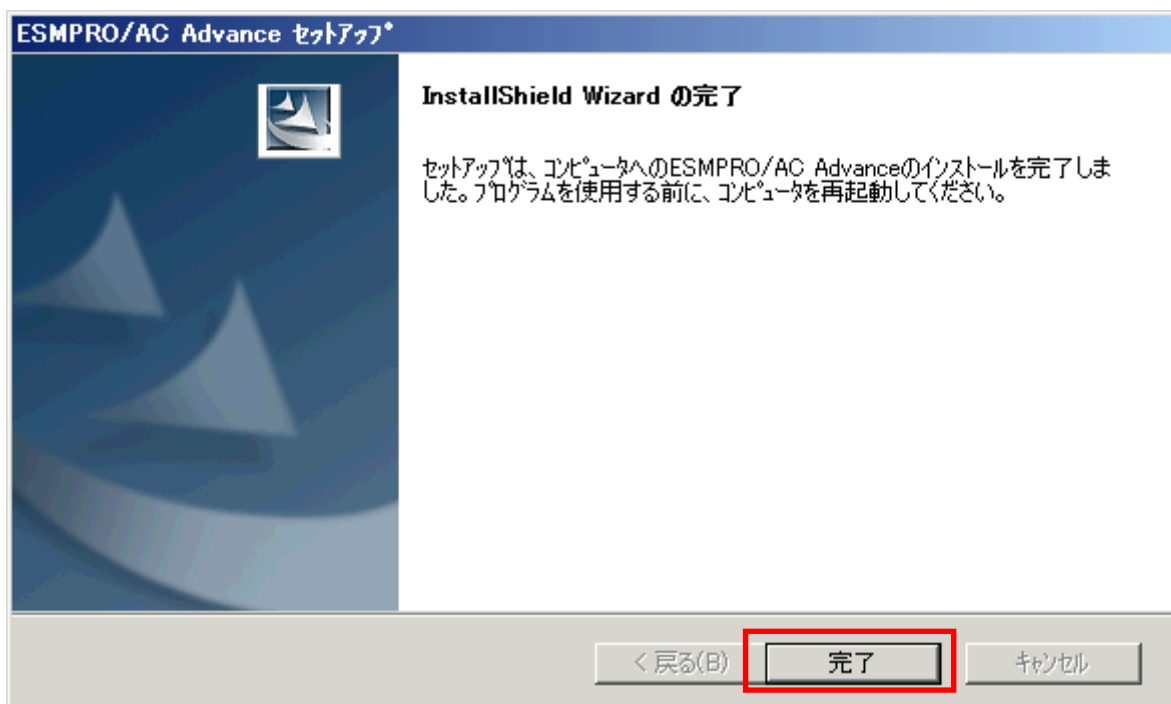


- (6) サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

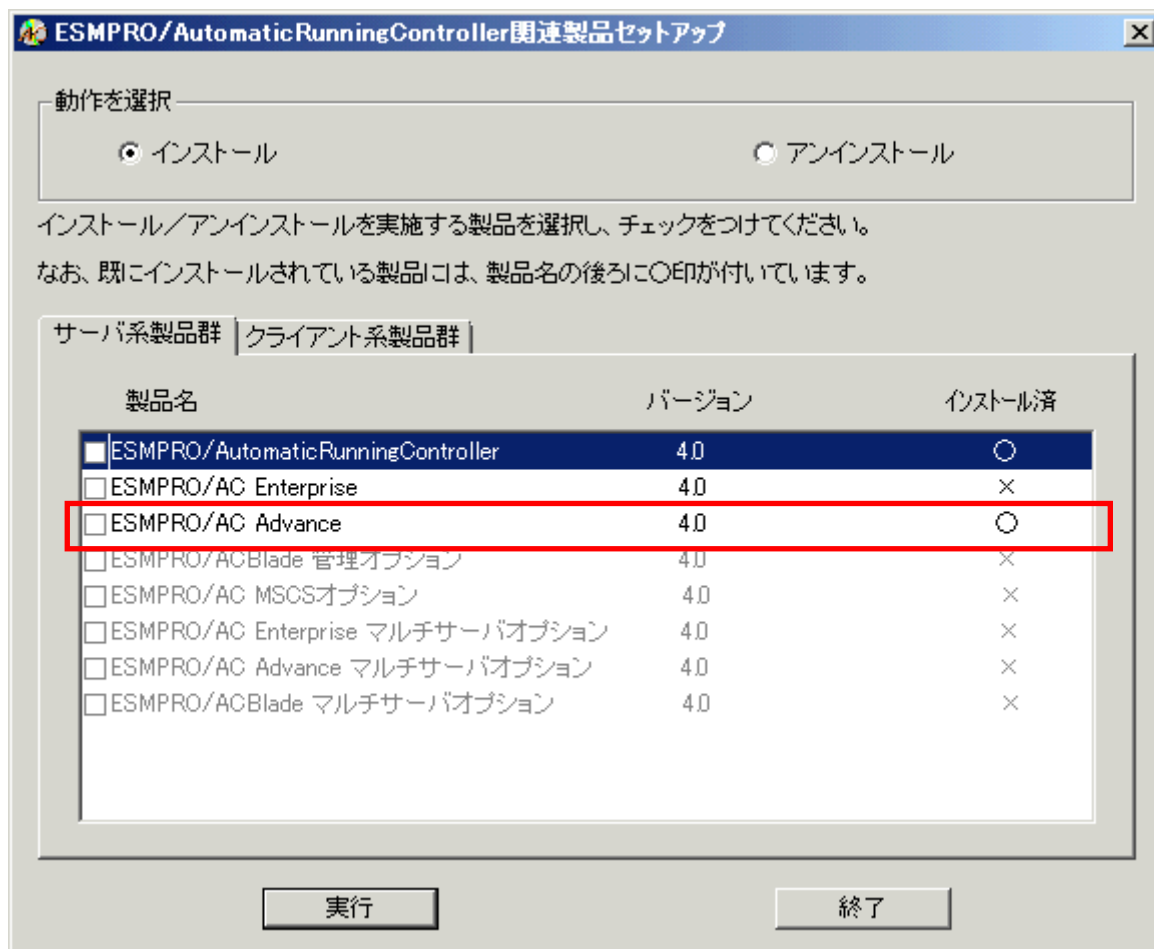


- (7) ファイルの転送が開始されます。

- (8) 次の画面が表示されたら、インストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。



- (9) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AC Advance のインストール済欄に○が表示されていることを確認します。

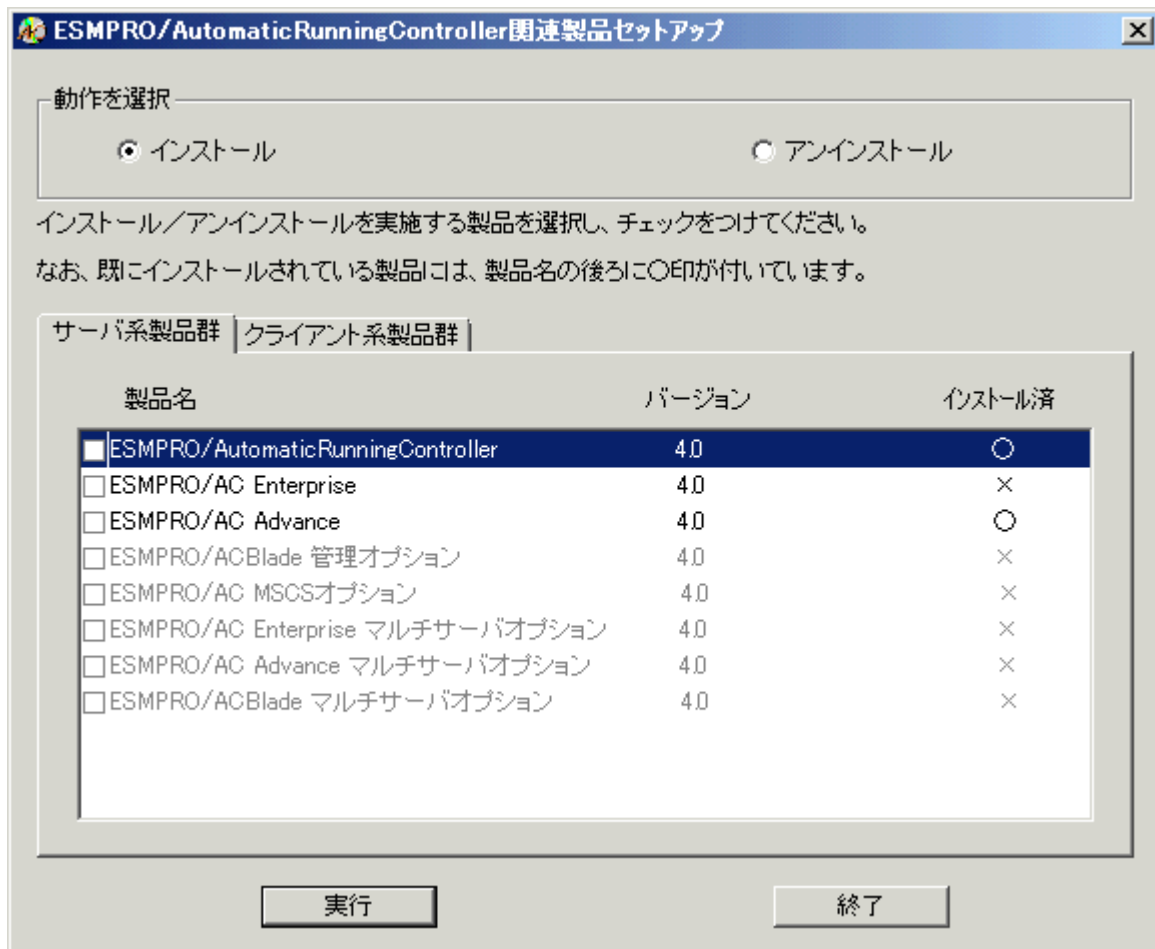


注意

- ESMPRO/AC Advance Ver4.0 は、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver4.0 がインストールされたサーバ上でのみ動作します。ESMPRO/AC Advance Ver4.0 をインストールする場合は、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver4.0 をインストールするソフトウェアに追加してください。
- 他のオプション製品をインストールする場合は、Setupac.exe からインストール作業を続行してください。インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。
- バージョンアップセットアップでは、これまでの運用で設定した情報を保持したまま、モジュールのコピーを行います。
- セットアップの実行中に<終了>及び<キャンセル>ボタンを押すと、セットアップ中止の確認のメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで<終了>ボタンを押すと、セットアップは中止されます。その場合、途中まで転送されたファイルの削除は行われませんのでご注意ください。

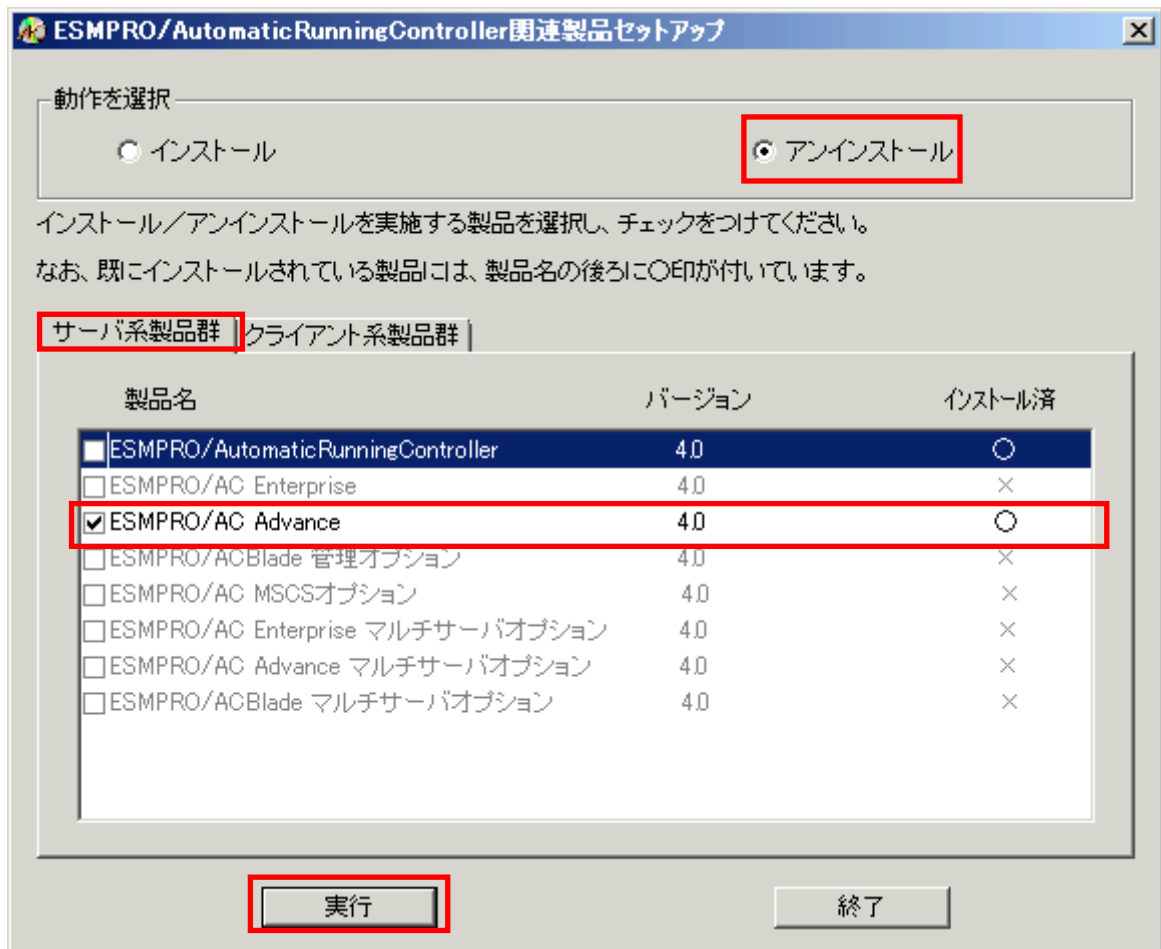
3.2 ESMPRO/AC Advance のアンインストール

- (1) インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 1.0』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてください。
- (2) CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。

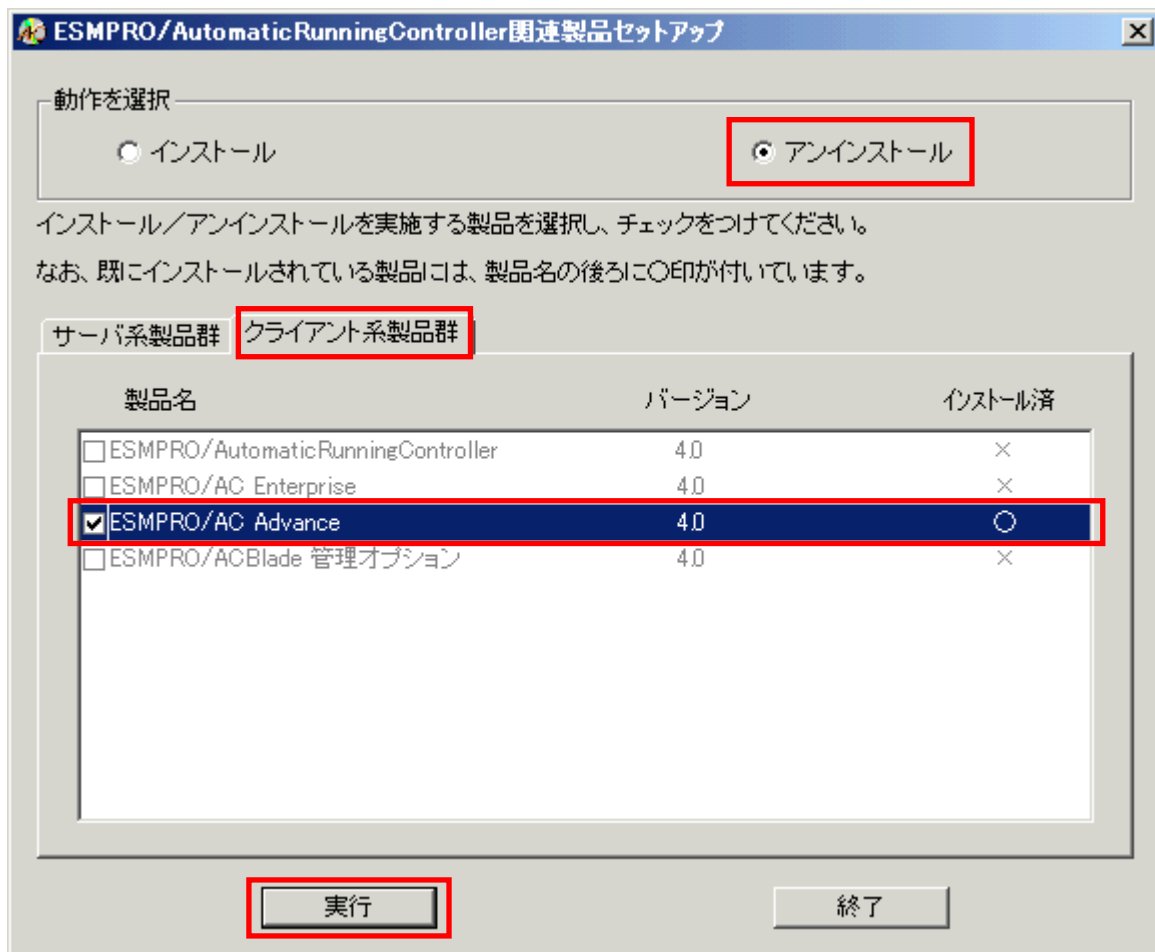


(3) 「ESMPRO/AC Advance」のセットアップには「サーバ系製品」と「クライアント系製品」があります。

- ◆ ESMPRO/AC Advanceのサーバ系製品をアンインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。

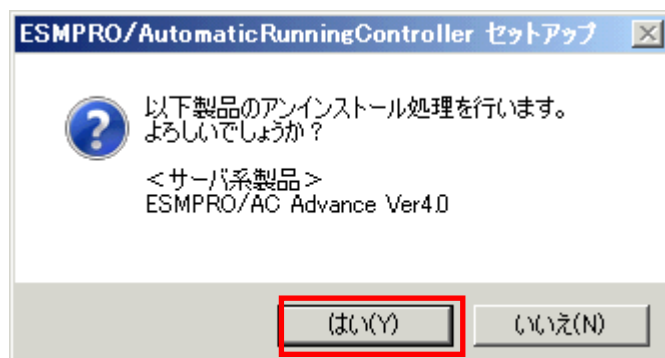


- ◆ ESMPRO/AC Advanceのクライアント系製品をアンインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、クライアント系製品群タブの中からESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。



(4) 「実行」 ボタンを選択します。

(5) 選択した製品のアンインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

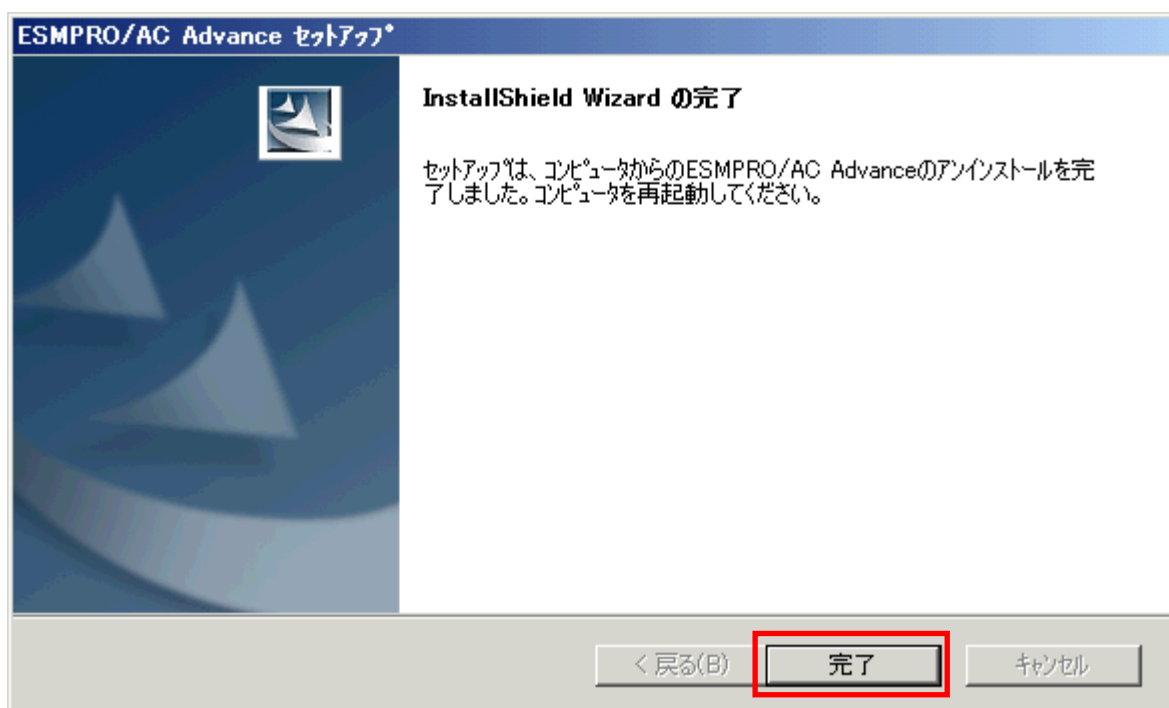


- (6) インストーラが起動され、もう一度確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

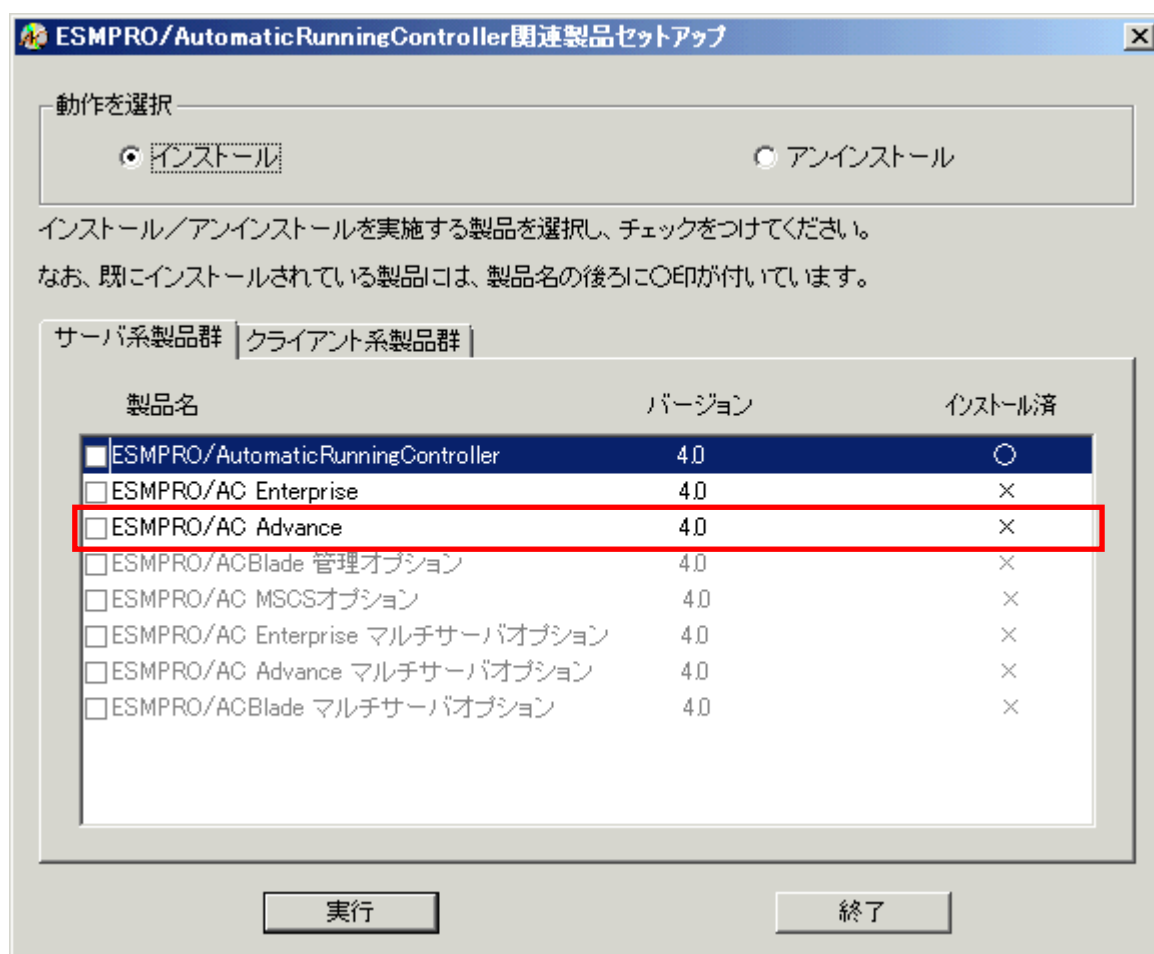


- (7) ファイルの削除が行われます。

- (8) 次の画面が表示されたら、アンインストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。



- (9) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AC Advanceのインストール済欄に×が表示されていることを確認します。



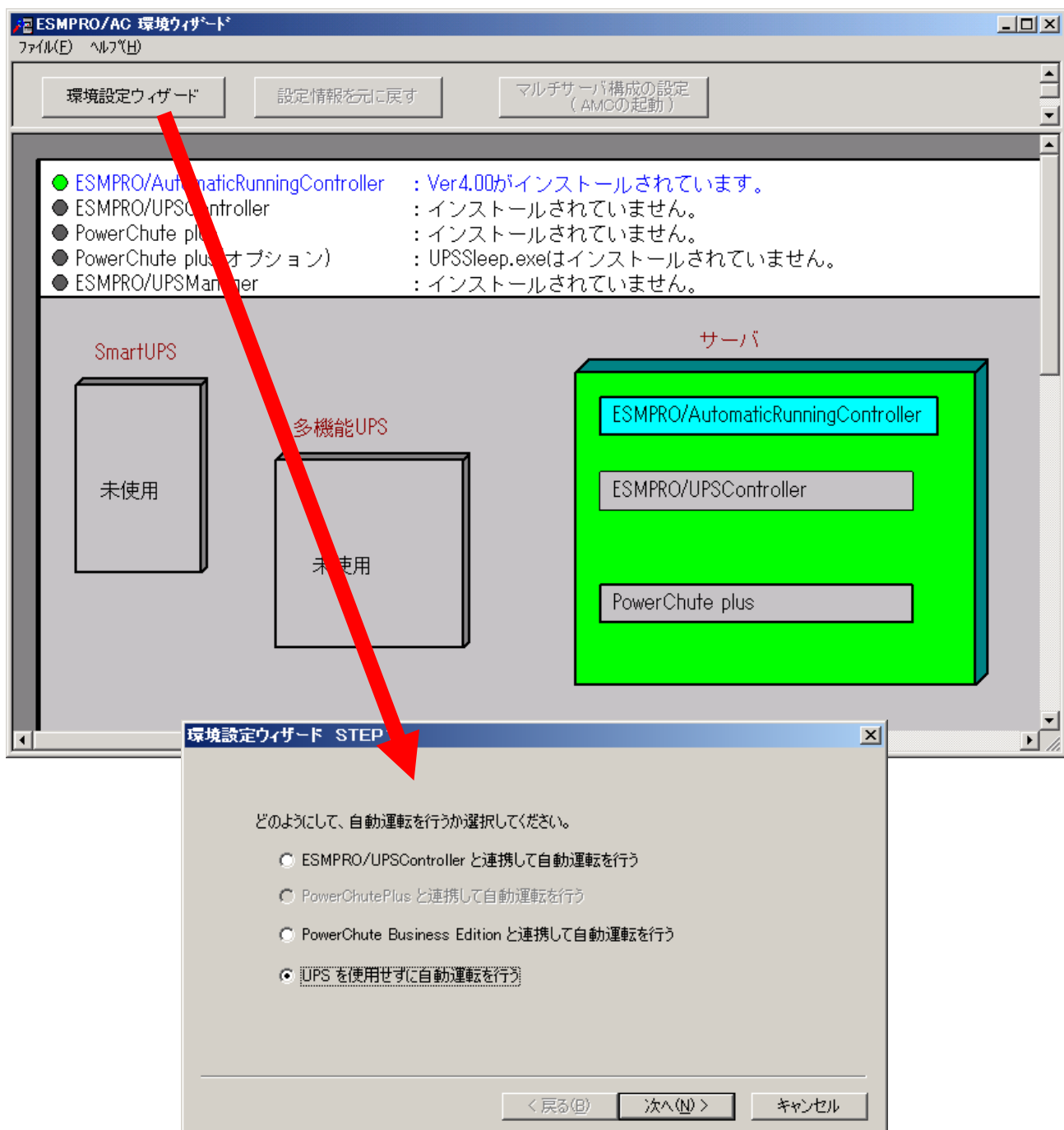
- (10) アンインストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

第4章 AMC 機能

ESMPRO/AC Advance では、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされたサーバの統合管理を実現させるため、AMC (AC Management Console) 機能を搭載しています。

4.1 AMC 機能を使用するためのセットアップ

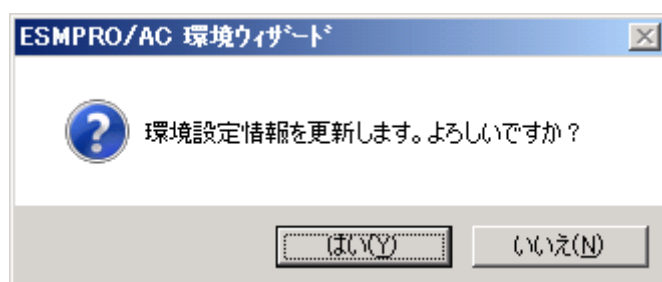
[スタート]—[ESMPRO_AutomaticRunningController]から「ESMPRO_AC 環境ウィザード」を起動し、「環境設定ウィザード」を選択します。



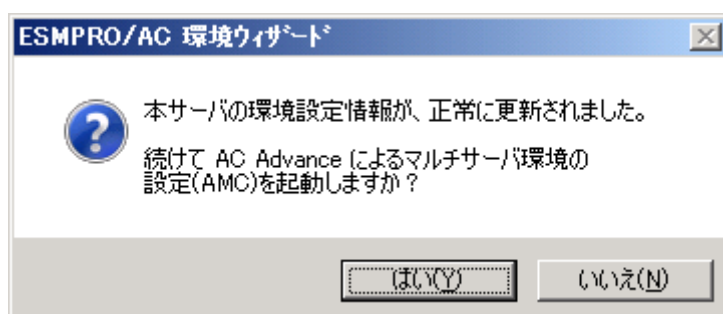
“UPS を使用せずに自動運転を行う”を選択し、「次へ(N)>」ボタンを押します。



「完了」ボタンを選択すると、以下のようなメッセージが表示されます。

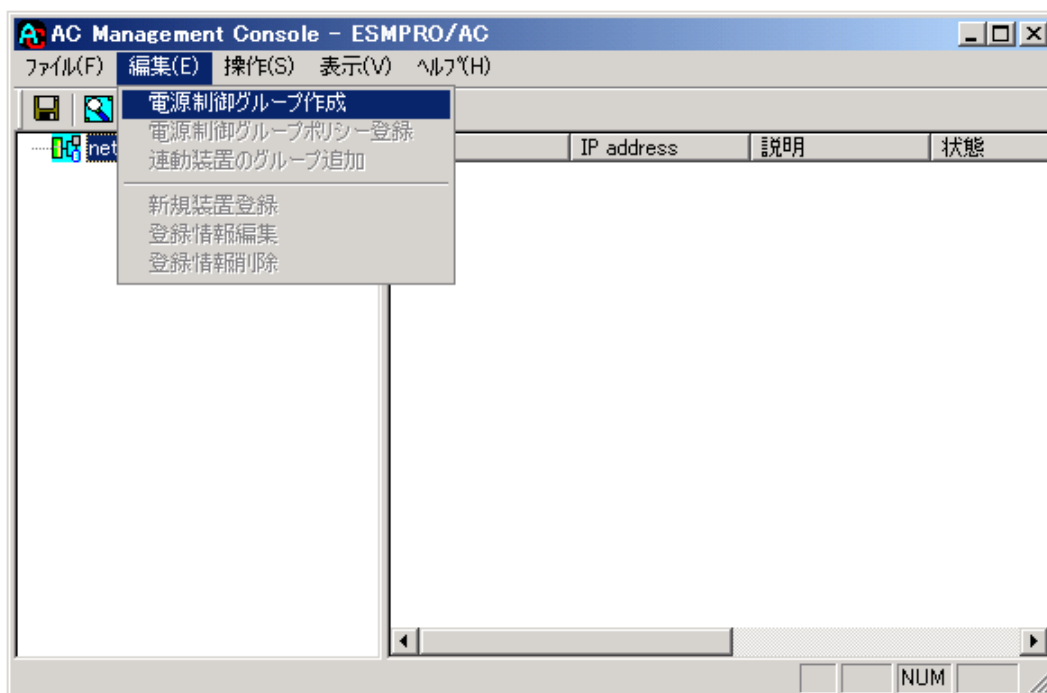


「はい(Y)」を選択すると、AMC の起動を確認するダイアログが表示されます。



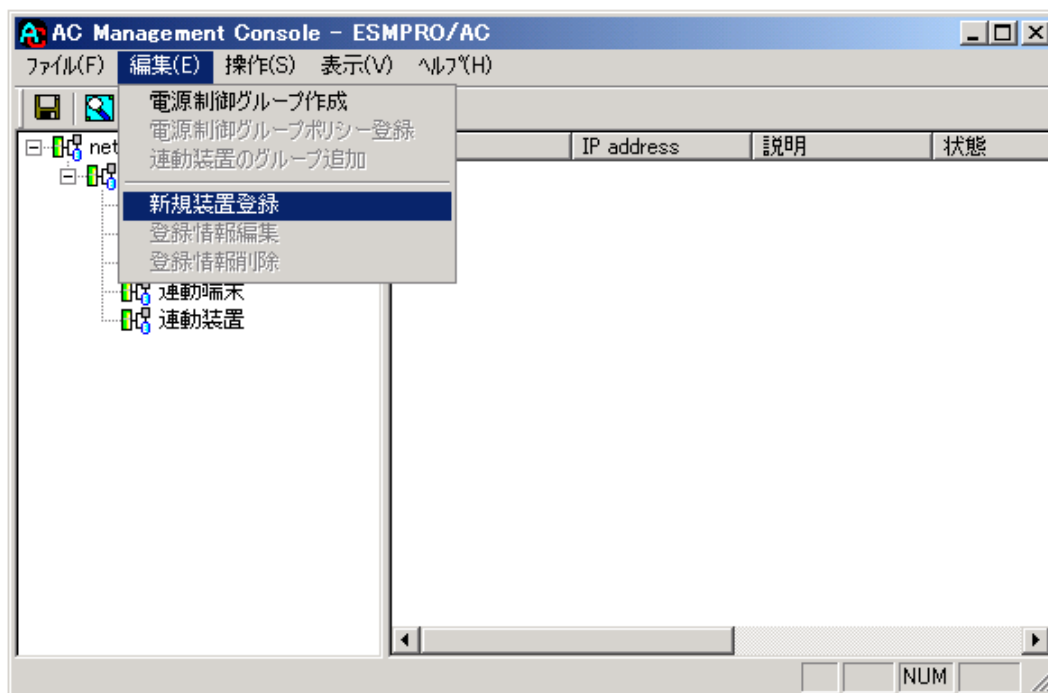
AMC を起動します。

「編集」メニューから「電源制御グループ作成」を選択し、グループ名を入力します。



作成したグループ配下のアイコンをクリックすると、グループポリシーの入力画面が表示されますので、制御端末が複数台のときは制御端末に届くローカルブロードキャストアドレスを、制御端末が1台のみのときは ESMPro/AC Advance をインストールした制御端末の IP address を入力します。

次に、ツリー上の「制御端末」にカーソルを当て、「編集」メニューから「新規装置登録」を選択します。



「制御端末（サーバ）」の入力画面が表示されますので、制御端末（サーバ）の情報を入力します。

制御端末をリモート起動する場合は、Advance option mode のチェックを有効にし、リモート起動用 MAC address、リモート起動用 IP address、リモート起動用 ネットマスクを入力します。MAC address は、コマンドプロンプトから“ipconfig /all”と入力し、出力結果に表示されている Physical Address を入力します。

リモート起動用 MAC address には WOL 機能が有効な LAN ポートの MAC address を入力します。

この操作を繰り返すことにより、複数の制御端末（サーバ）を登録することができます。

制御端末(サーバ)

ESMPRO/AC EnterpriseかAC Advanceをセットアップし、電源管理制御が行えるサーバの登録・編集を行います

OK
キャンセル

名称 (コンピュータ名: 15文字まで。Linuxの場合は大/小文字を区別する必要あり)
☒ コンピュータ名を大文字に自動変換する。(Linuxの場合は無効)

IP address (例: 172.16.1.10)

説明 ☐ Linux ☐ SNMP Trapを使用しない

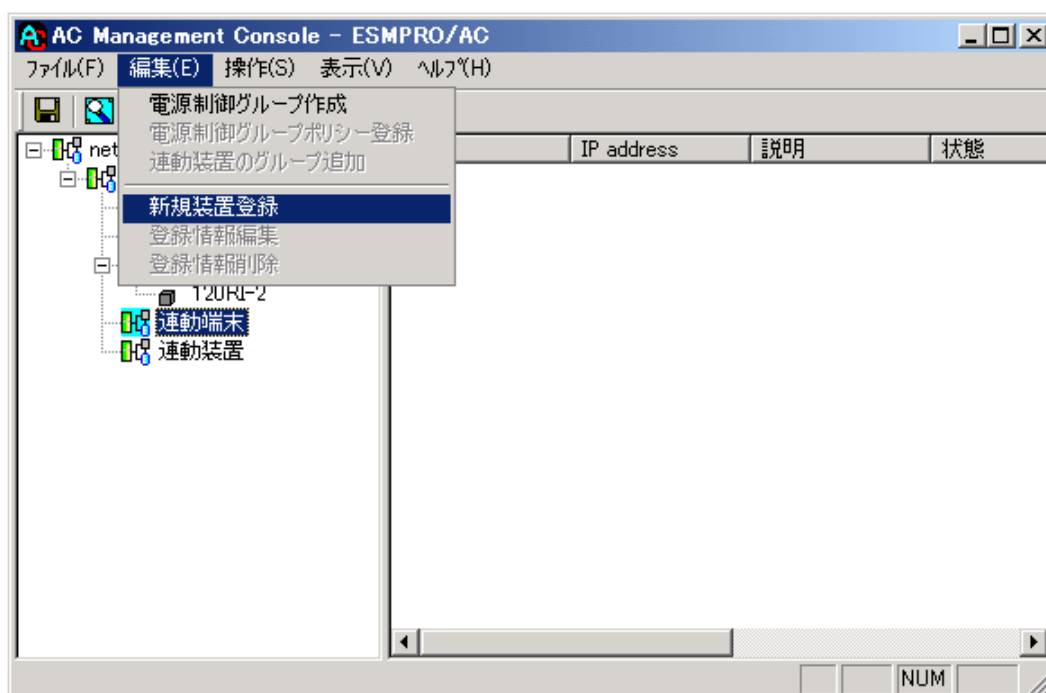
☒ Advance option mode

リモート起動用 MAC address

リモート起動用 IP address

リモート起動用 ネットマスク

次に、ツリー上の「連動端末」にカーソルを当て、「編集」メニューから「新規装置登録」を選択します。



「連動端末（サーバ）」の入力画面が表示されますので、ESMPro/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされた連動端末（サーバ）の情報を入力します。

Advance option mode のチェックを有効にし、リモート起動用 MAC address、リモート起動用 IP address、リモート起動用 ネットマスクを入力します。連動端末の MAC address は、連動端末にてコマンドプロンプトから“ipconfig /all”と入力し、出力結果に表示されている Physical Address を入力します。

リモート起動用 MAC address には WOL 機能が有効な LAN ポートの MAC address を入力します。

この操作を繰り返すことにより、複数の連動端末（サーバ）を登録することができます。

連動端末(サーバ)

「ESMPro/AC Enterprise マルチサーバオプション」か、「ESMPro/ACBlade マルチサーバオプション」、「ESMPro/AC Advance マルチサーバオプション」をセットアップしたサーバを登録します。

名称 (コンピュータ名: 15文字まで。Linuxの場合は大/小文字を区別する必要あり)

☒ コンピュータ名を大文字に自動変換する。(Linuxの場合は無効)

IP address (例: 172.16.1.10)

説明 ☐ Linux

☒ Advance option mode

リモート起動用 MAC address

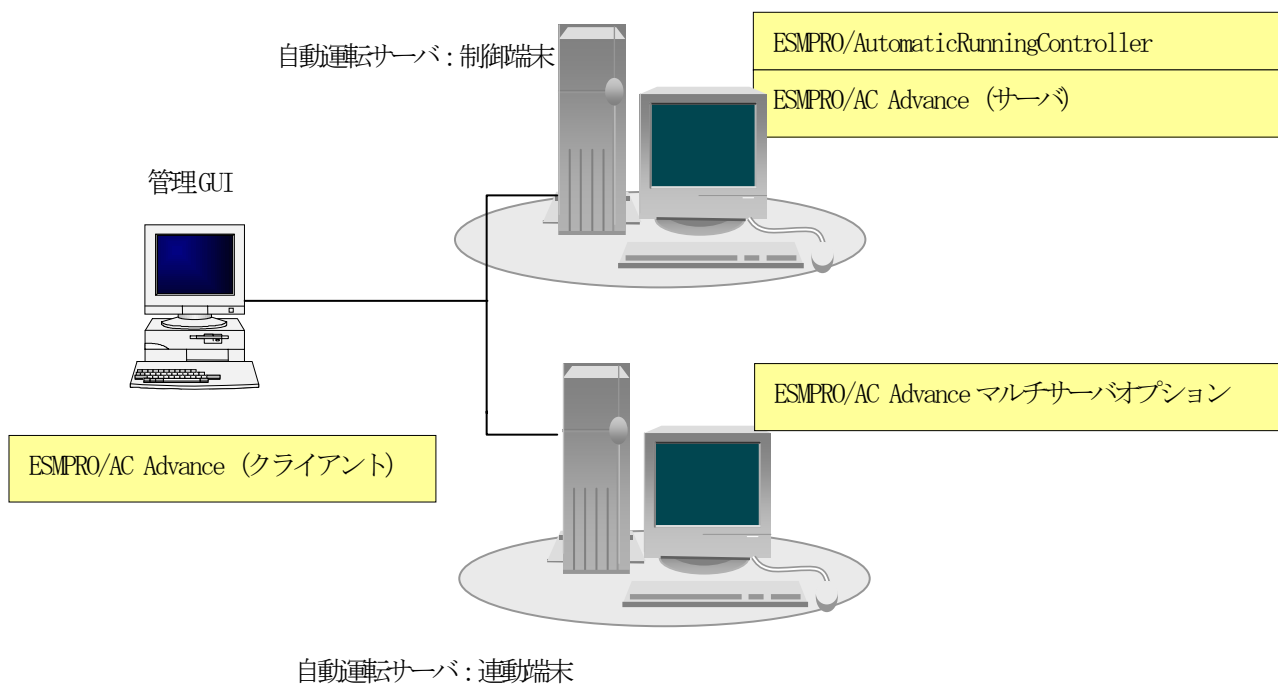
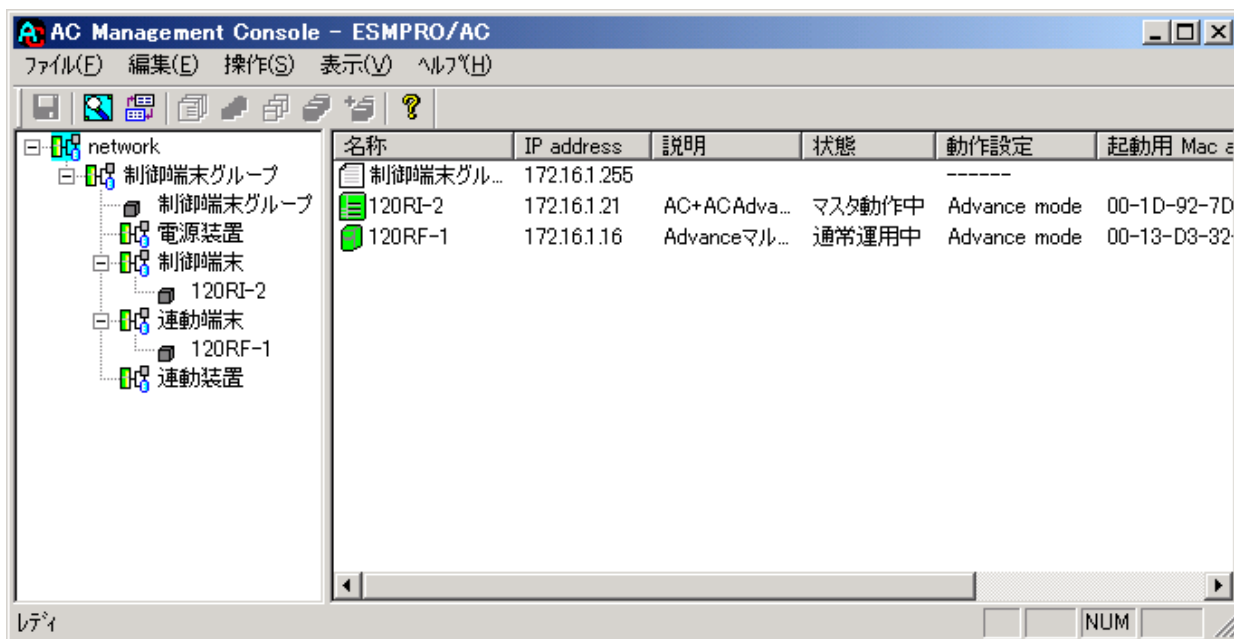
リモート起動用 IP address

リモート起動用 ネットマスク

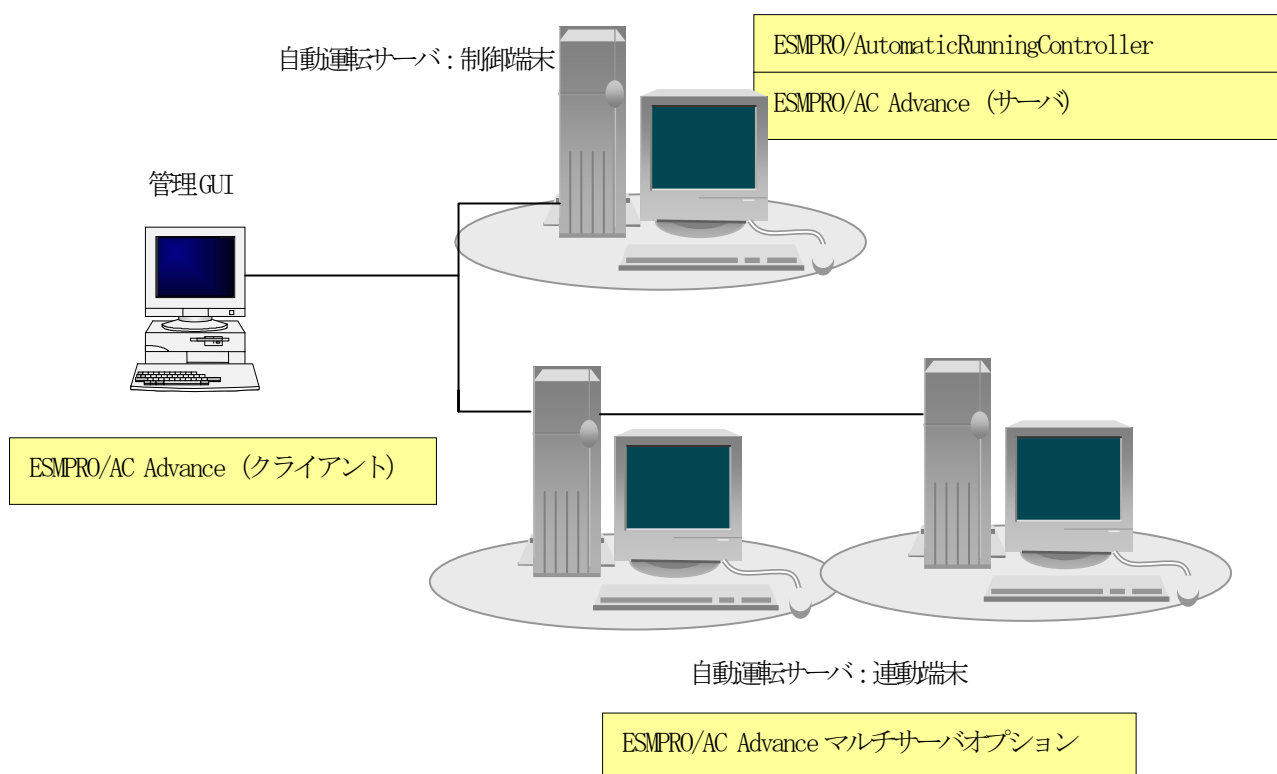
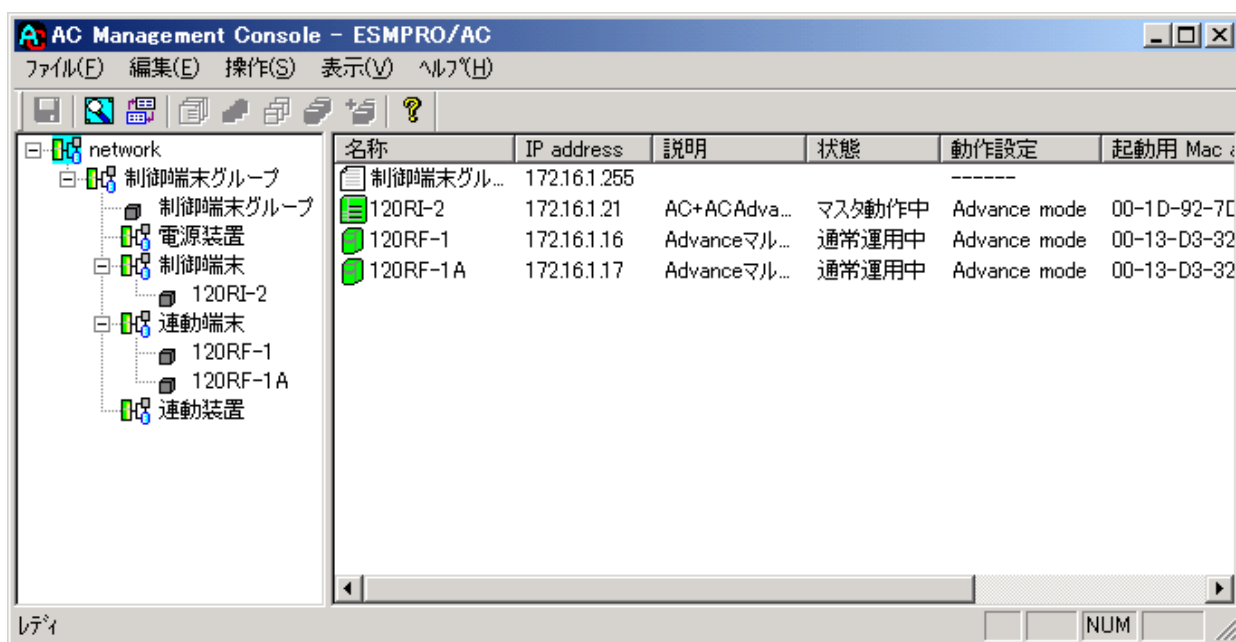
4.2 マルチサーバ構成の運用例

AMC では、制御端末に ESMPRO/AC Advance がインストールされたサーバ、連動端末に ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされた端末を登録します。

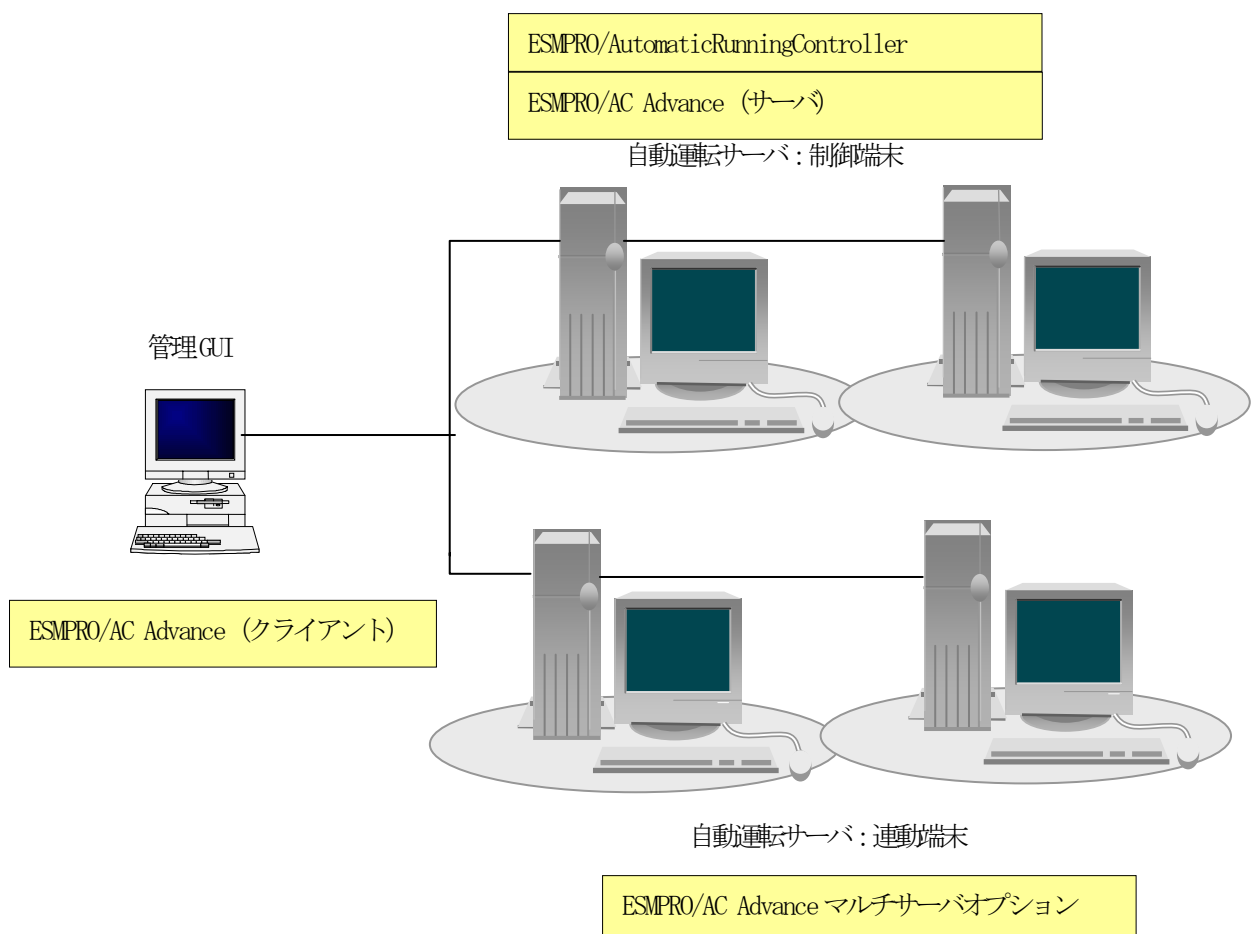
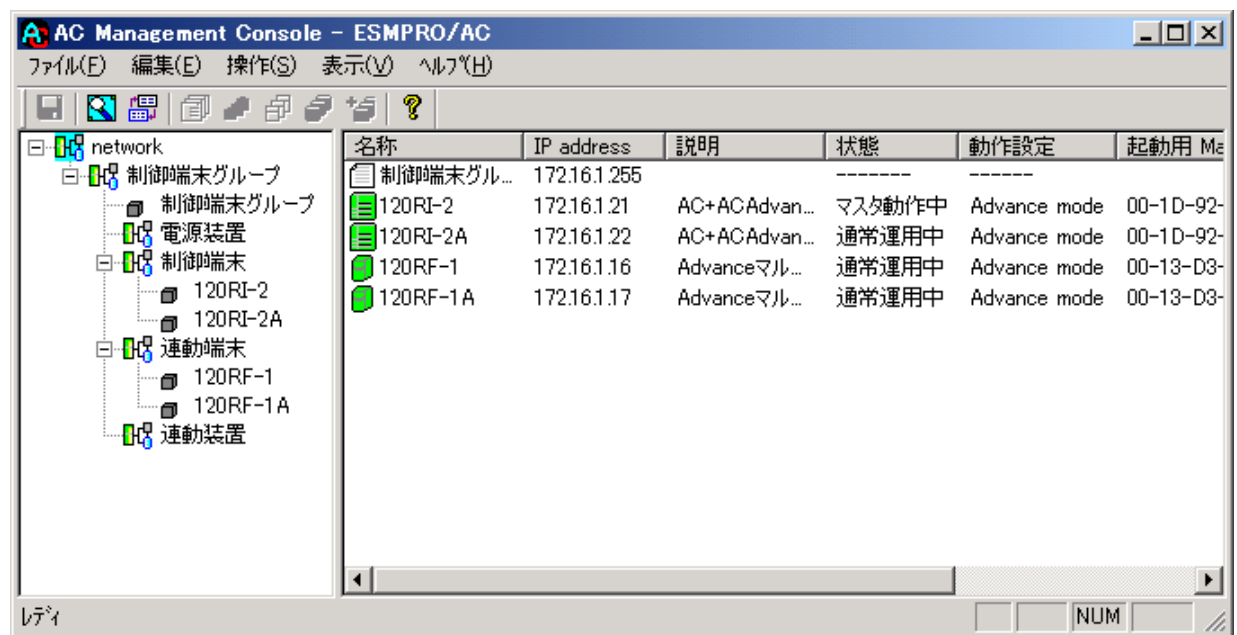
(1) 制御端末 1 台、連動端末 1 台の場合



(2) 制御端末 1 台、連動端末 2 台の場合



(3) 制御端末 2 台、連動端末 2 台の場合



第5章 障害発生時には

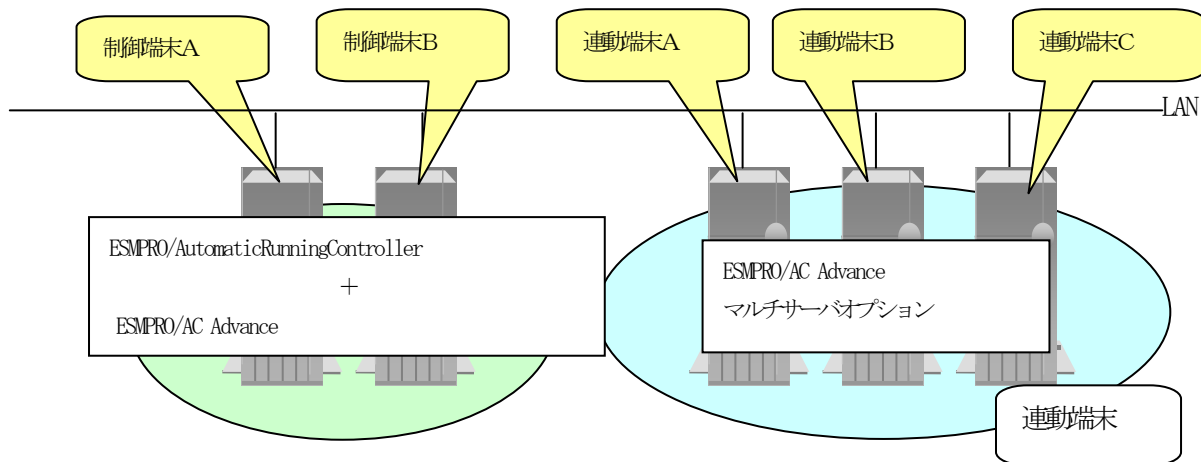
障害発生時には、お手数ですが、以下の情報を採取してください。

- ESMPRO/AutomaticRunningController ログ
- イベントログ
- バージョン情報

(以上の採取方法につきましては、「ESMPRO/AutomaticRunningController セットアップカード」をご参照ください。)

5.1 マルチサーバ構成でのログ採取方法

システムの構成が、マルチサーバ構成の場合、次のような方法でログを採取してください。



例えば、上図のようなマルチサーバ構成の場合、

(1) 制御端末

すべての制御端末（この例の場合、制御端末A、制御端末Bの両方）でESMPRO/AutomaticRunningControllerのセットアップカードを参照して必要なログを採取してください。また、その他に下記ログの採取もお願いいたします。

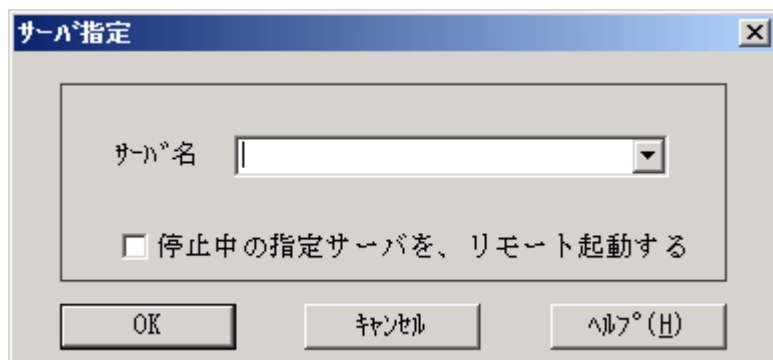
ESMPRO/AutomaticRunningController インストールフォルダ下の”Data” フォルダ下の
ac_e_net.ini, ac_e_net.apc, ac_e_net_d.apc

(2) 連動端末 (Windows サーバ)

制御端末および、管理GUIのインストールされているコンピュータのESMPRO/AutomaticRunningController GUIを使用し、下記手順で、連動端末A、B、Cそれぞれのログを採取してください。

例えば、制御端末Aから連動端末Aのログを採取する場合

- ①制御端末のESMPRO/AutomaticRunningController メインメニューのサーバボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。



- ②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、連動端末Aのサーバ名を入力し、OK ボタンを選択して、連動端末Aに接続します。

例えば、連動端末のサーバ名が、「110RH-1」の場合、上記サーバ指定で

110RH-1

と入力します。接続しましたら下記のように表示されます。



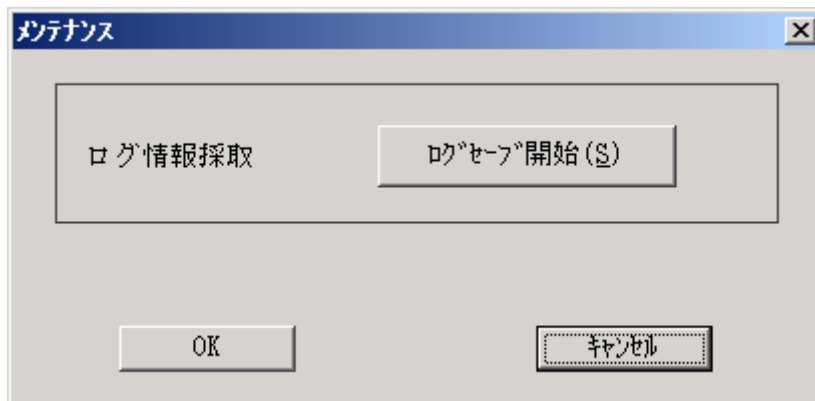
- ③もう一度、サーバボタンを選択し、サーバ指定ダイアログを表示させます。サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、

ESM/PC MAINT

と入力し、「OK」ボタンを選択します。

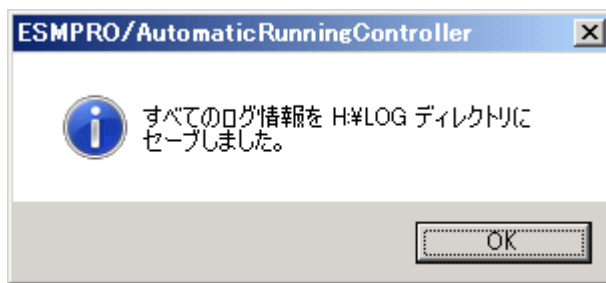


④「ログセーブ開始」ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。



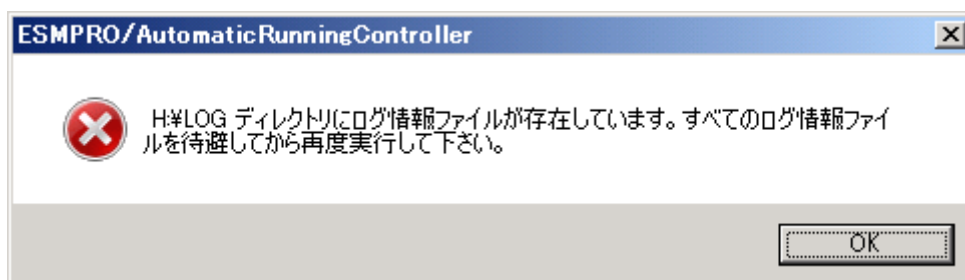
ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

ログ採取正常終了メッセージ



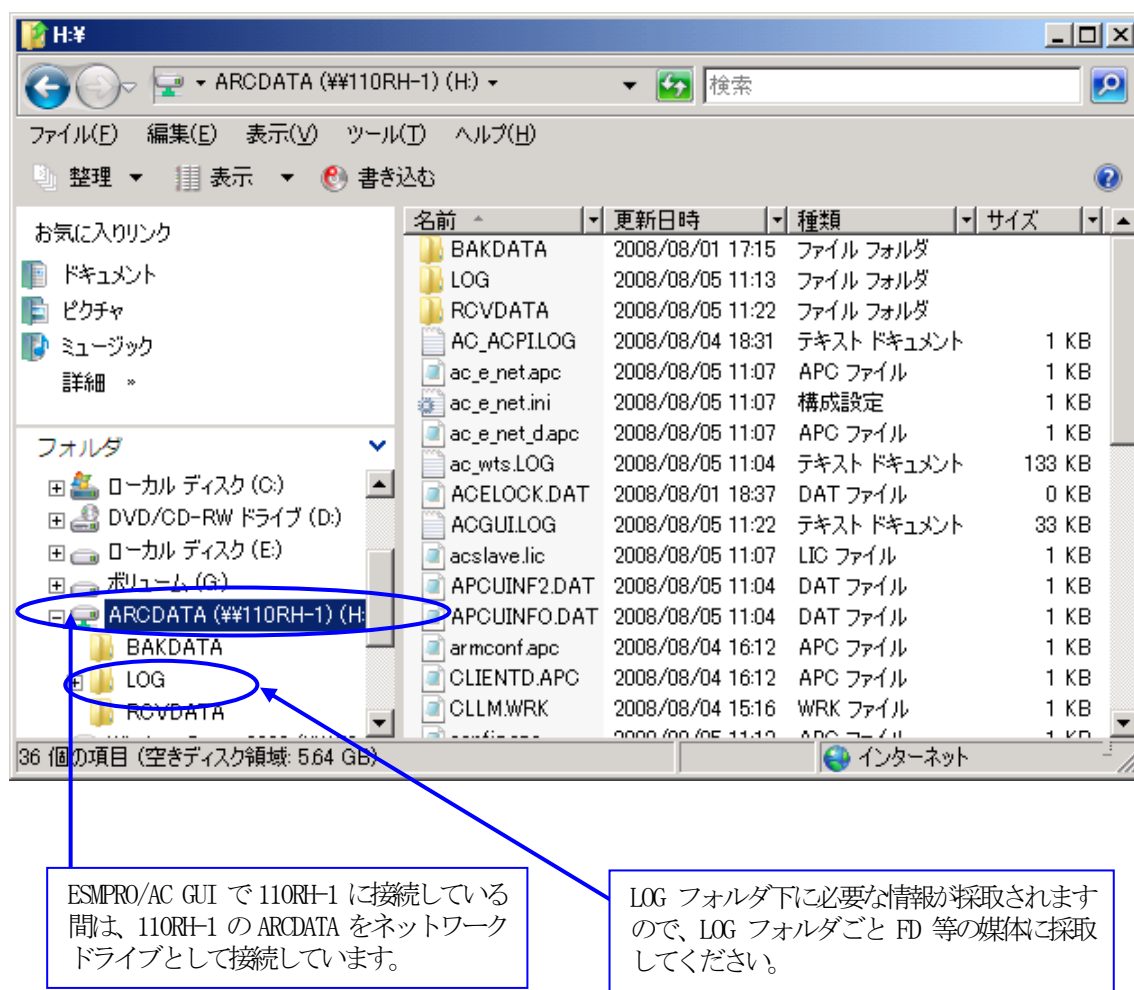
ログ採取正常終了のメッセージです。⑤の作業を実行してください。

ログ採取異常終了メッセージ



上記のエラーメッセージが表示された場合、既にログファイルが存在することが考えられます。ログ採取に失敗した連動端末の ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA¥LOG 下にログファイルが存在する場合は、ファイルを退避するか削除して、操作をやり直してください。

⑤制御端末のエクスプローラを実行して、ログ情報を採取してください。



※LOG フォルダ下に採取されるファイルは、採取するタイミング／状態によって異なります。
(スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。)

Readme : サービスおよび GUI の動作不良のため、上記操作でのログ採取できない場合は、以下の方法で採取をお願いいたします。

- ①エクスプローラ等を使用してください。
 - ②連動端末の ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ\data ディレクトリ下のすべてのファイルを採取してください。
- ※ネットワークが不調な場合などは、連動端末のエクスプローラを使用して直接採取することもできます。

第6章 注意事項

6.1 セットアップ関連

ESMPRO/AutomaticRunningController と ESMPRO/AC Advance をインストールする場合、インストールするソフトウェアのバージョンは必ず両方とも「Ver4.0」の製品をインストールしてください。

6.2 運用時における注意

ESMPRO/AC Advance をインストールした環境でスケジュール運転を行う場合、制御端末自身へは電源 ON 制御が必要となる停止期間を持つスケジュール設定（電源 OFF から ON までの間隔が 2 分間以上空いている設定）は行わないでください。

これは、制御端末が自サーバの ON 制御を行うことができないためです。ただし、電源 ON 制御が必要でないリブートを行うスケジュール設定（電源 OFF から ON までの時間が 1 分間に設定）は可能です。制御端末のリブートに掛かる時間中は連動端末に対する電源制御が行えませんので、制御端末のリブート時刻と連動端末の ON/OFF 時刻が重複しないように設定してください。

その他の連動端末に対しては各サーバで独立したスケジュールで運用可能です。

<設定例>

制御端末

連動端末
1

連動端末
2

連動端末
3

連動端末
4

